

SCOSTEP次期国際共同観測計画CAWSES(2004-2008)の概略について

Introduction to the planned new SCOSTEP Program CAWSES for 2004-2008

藤井 良一[1], 津田 敏隆[2]

Ryouichi Fujii[1], Toshitaka Tsuda[2]

[1] 名大・太陽研, [2] 京大・宙空電波

[1] STEL, Nagoya Univ, [2] RASC, Kyoto Univ.

SCOSTEPは、現在実施されている領域毎の研究計画ISCS, S-RAMP、PSMOS、EPIC計画の後に、太陽地球系の中で生起している様々な現象の変動のタイムスケールを指標として、比較的短い時間変動現象(Space Weather)と長い時間変動(Space Climate)の研究を通して、太陽地球系全体の物理をより良く理解することを目的とした”CAWSES”(Climate and Weather of the Sun-Earth System)を計画している。この計画では研究で得られた成果や知見の社会への応用と教育への貢献も重要な目的として位置付けられている。国際的状況としては2001年6月のSCOSTEP理事会と総会でCAWSES計画が承認され、7月にはICSUから了承を得た。計画は：1)現在実施中の計画グループの再構成と新プロジェクト立ち上げ期間を考慮して2003年をpre-CAWSES(計画立案期間)として、2004-2008年を本格的実施期間とする。2002年内に運営組織と主な研究課題・実施計画を決める。2)CAWSES Science Steering Groupを立ち上げて、本年夏までに実施原案を作成する。3)研究対象が11年周期の太陽活動に強く関係しているので、2009年以降にCAWSES-IIを継続することを目指す、ということになっている。国内の進捗状況としては、現在、学術会議のSCOSTEP専門委員会とSTPP専門委員会が協力して太陽と太陽風、太陽風-磁気圏-電離圏、磁気圏-電離圏-熱圏、電離圏-熱圏-大気圏、プラズマ物理学、惑星外圏科学、古環境学のWGを立ち上げ計画案の検討を始めているが、立案の段階から関連する多くの研究者、研究機関が十分計画を理解し、積極的に参加することが、計画を成功させ、十分意義あるものとするために必須である。

本講演では、引き続き行われる講演のイントロダクションとして、本CAWSES計画の目指す科学的な目的の概要、国際国内両方における取り組みの現状と今後の方向性について述べる。